

空都 土浦

戦跡めぐり

サイクリング

@土浦



サイクリングコース (当日変更あり)

⇒予科練の一本松 ⇒ 予科練平和記念館
・雄翔館⇒航空隊空襲慰霊碑⇒霞ヶ浦医療センター(海軍病院跡)⇒神龍寺(海軍航空隊殉職者慰霊塔)⇒亀城公園(忠魂碑)⇒霞月楼⇒まちかど蔵⇒吾妻庵・保立食堂・城藤茶店⇒土浦駅(鉄道事故慰霊碑)⇒いばらきコープ

*土浦海軍航空隊が舞台の『決戦の大空へ』(映画、1943年、YouTubeで視聴可能)があります。

2025年
7月5日(土)

◆**9時~12時**

雨天延期(⇒7月6日⇒7月12日の順で)

◆**集合:・解散**

コープつちうら店前

(裏面の地図を参照)

駐車場は使用できません

◆**申込はメールで**

先着10人とします

お願い

- ・自転車が必要です
- ・主催者は事故等には責任を一切負えません。

主催

土浦サイクルシティくらぶ

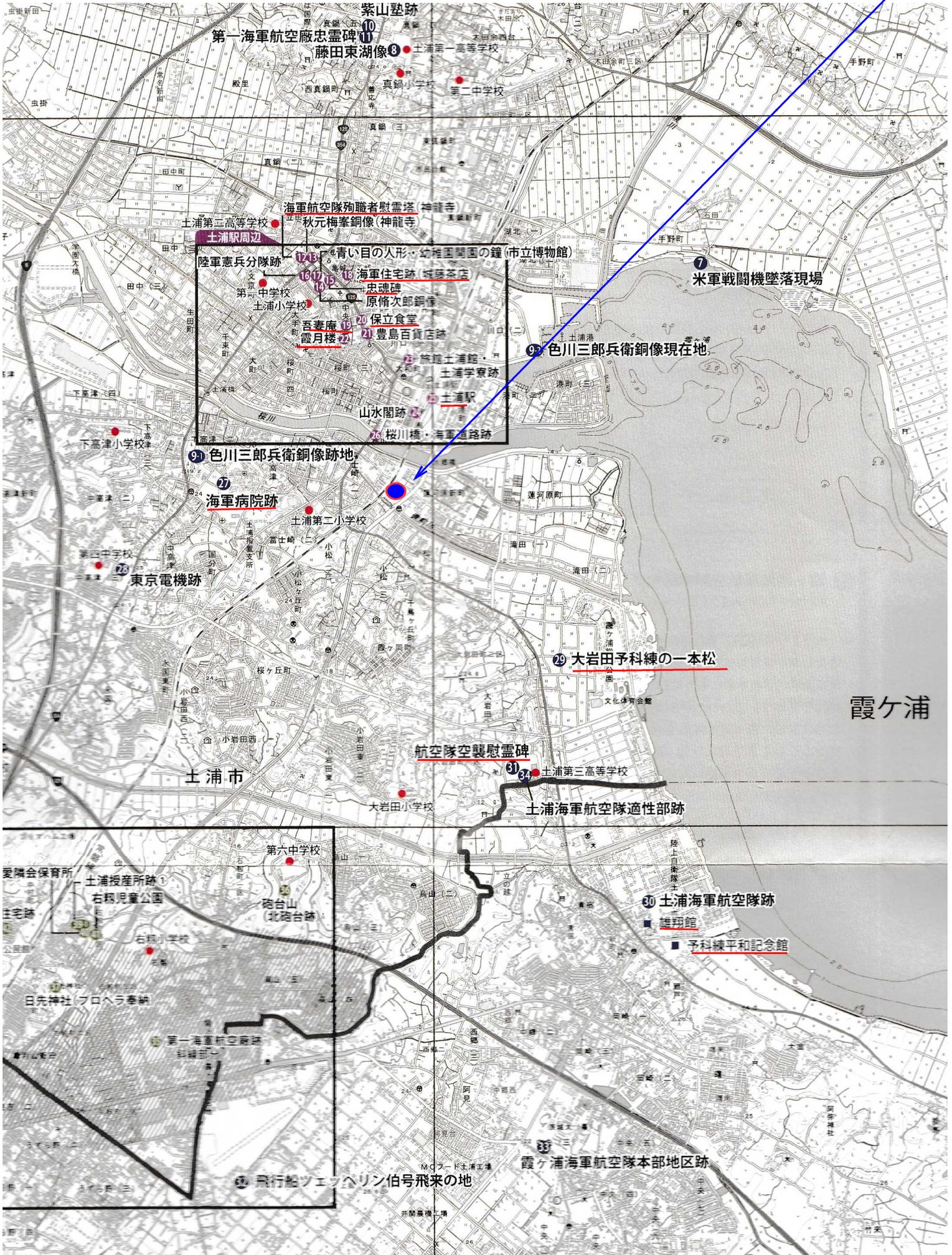
mail: tccc30036@gmail.com

後援 土浦駅周辺マンション連絡会



土浦・戦争の記憶マップ

集合・解散 (コープ・つちうら店前)



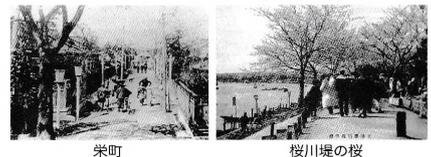
『戦争の記憶マップ』(土浦市立博物館、2021年)より転載



土浦駅周辺 つちうらえきしゅうへん

旧城下町であった土浦町が劇的に変化するきっかけとなったのが、大正11（1922）年に阿見村に開隊した霞ヶ浦海軍航空隊の存在です。土浦は飲食店の集団移転や海軍住宅の建設、桜町一帯の新市街地の整備など、航空隊の活動を下支える海軍の町としての性格をもつようになりました。

土浦が市制施行した昭和15（1940）年には、土浦海軍航空隊（通称「予科練」）も開隊し、休日には予科練生の外出先として、市内の「クラブ」「下宿」と呼ばれた民家や「指定食堂」は大いににぎわいました。当時の様子は、予科練生の生活・訓練をテーマとした映画「決戦の上空へ」（1943年）で描かれています。



霞ヶ浦・土浦海軍航空基地の位置図と戦争遺跡



『戦争の記憶マップ』（土浦市立博物館、2021年）
 『茨城県の戦争遺跡』（伊藤純郎編、平和文化、2008年）より転載

29 大岩田予科練の一本松

おおいわたよかれんのいっぽんまつ

大岩田 MAP C-3

「予科練の松」と呼ばれ、霞ヶ浦を航行する際の目印となり、予科練生や地元民に親しまれていました。昭和52（1977）年に枯死したため、予科練関係者の尽力により二代目の松が植栽されました。

現在の松は平成7（1995）年に植えられた三代目の松です。



【予科練平和記念館】よかれんへいわきねんかん

MAP C-4

平成22（2010）年、阿見町により、予科練習生の歴史や阿見町の戦争関連の記録などを保存・展示する施設として開館しました。

阿見町大字廻戸5-1
午前9時～午後5時
029-891-3344



30 土浦海軍航空隊跡

つちうらかいぐんこうくうたいあと

阿見町青宿

(陸上自衛隊 土浦駐屯地・武器学校)

MAP C-4

昭和14（1939）年3月に、横須賀海軍航空隊の海軍飛行予科練習生が霞ヶ浦海軍航空隊の水上班に移り、これが霞ヶ浦海軍航空隊予科練習部（通称「予科練」）となり、翌年独立したのが土浦海軍航空



霞ヶ浦で訓練する予科練生

隊です。終戦までの15年間で約24万人が入隊し、うち約2万4千人が飛行練習生課程を経て、戦地へ赴きました。戦後、跡地には自衛隊の武器学校が移転され、隣接地に予科練平和記念館が建設されています。



空襲で焼け残った塙



土浦駐屯地

【雄翔館】ゆうしょうかん

MAP C-4

駐屯地内に昭和43（1968）年開館。予科練戦没者の遺書・遺品を収蔵・展示しています。予科練出身者、遺族などで構成される公益財団法人海原会が管理しています。

阿見町青宿121-1

(陸上自衛隊 土浦駐屯地内)

午前9時30分～午後4時30分

03-3768-3351 (財団事務局)

029-887-1171 (陸上自衛隊 土浦駐屯地・武器学校 広報援護班)



34 土浦海軍航空隊適性部跡

大岩田 (土浦第三高等学校)

つちうらかいぐんこうくうたいてきせいぶあと

MAP C-3

海軍航空要員研究所（適性部）では、飛行兵の採用試験や適性検査が行われました。土浦三高校舎改築に伴う発掘調査の際、終戦時に分解して廃棄したと思われる検査器具の部品が発見されています。



出土した器具部品 (阿見町所蔵)

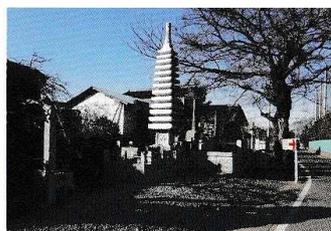


31 航空隊空襲慰霊碑

こうくうたいくうしゅういれいひ

大岩田 (法泉寺前) MAP C-3

空襲の犠牲となった土浦海軍航空隊職員及び飛行予科練習生281名の慰霊碑です。昭和20（1945）年6月10日、土浦海軍航空隊は大型戦略爆撃機B29により大きな被害を受けました。



27 海軍病院跡

かいぐんびょういんあと

下高津2丁目 (霞ヶ浦医療センター)

MAP B-3

霞ヶ浦海軍病院は、昭和16（1941）年に創設され、戦後は海軍の解体により、厚生省へ移管されました。消火栓や給水タンクのほか、コンクリート造りの遺構が敷地内に残ります。当時の門柱が、正面入口の門柱に使用されています。

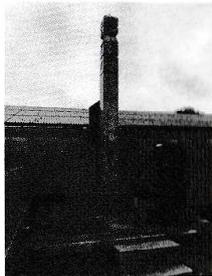


12 海軍航空隊殉職者慰霊塔
かいぐんこうくたいじゆんしよくしゃいれいとう

文京町（神龍寺）
MAP B-3

霞ヶ浦海軍航空隊での航空機事故犠牲者の慰霊塔です。昭和10（1935）年に建てられ、殉職者41人の名が刻まれています。

神龍寺の参道近くの家には霞ヶ浦海軍航空隊に副長として赴任中だった山本五十六が住んでおり、住職の秋元梅峯と交友がありました。



15 忠魂碑
ちゅうこんひ

中央1丁目（亀城公園） MAP B-3

大正11（1922）年、陸軍大臣山梨半造の揮毫により建てられました。大正9（1920）年におこった尼港事件の犠牲者を弔うため、土浦町の青年会の働きかけが建立のきっかけになったと考えられます。



22 霞月楼
かげつろう

中央1丁目 MAP B-3

明治22（1889）年創業の料亭です。航空隊ではKG（ケージー）と呼ばれ、霞ヶ浦海軍航空隊副長山本五十六をはじめ、海軍士官がよく利用しました。建物内には資料室があり、写真の海軍士官の寄せ書き屏風も現存しています

（常時公開はしていません）。



19 吾妻庵 指
あづまあん

中央1丁目 MAP B-3

明治6（1873）年創業のそば屋です。休日の日中に予科練生が訪れることのできる「指定食堂」でした。戦中に使用された看板も現存しています（常時公開はしていません）。



20 保立食堂 指
ほたてしよくどう

中央1丁目 MAP B-3

明治2（1869）年創業の食堂です。予科練生の「指定食堂」のひとつでした。丼物が人気で、店の二階は予科練生と家族との面会にも利用されました。



18 海軍住宅跡（城藤茶店）

中央2丁目 MAP B-3

かいぐんじゅうたくあと（しろふじのちゃみせ）

昭和11（1936）年、亀城通り開通後に建てられた書院造りの住宅で、海軍士官が借りて住んでいました（現在は古民家カフェとして活用）。市内生田町や下高津・小松などには、海軍住宅と呼ばれた住宅地がありました。



生田町の海軍住宅（予科練平和記念館所蔵）



25 土浦駅
つちうらえき

有明町1丁目 MAP C-3

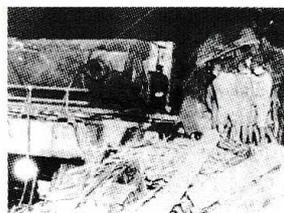
土浦駅は明治28（1896）年に開設、大正期の海軍航空隊の設置後は、航空隊の玄関口となり、昭和11（1936）年には軍艦型の新駅舎が完成しました。昭和18年には常磐線三重衝突という痛ましい事故がありました。

空襲による延焼を防ぐため駅前では建物疎開があり、戦後は広場、現在はバスターミナルとなっています。



【常磐線三重衝突事故】

昭和18（1943）年10月26日、常磐線土浦駅構内で入換作業で移動中だった貨車と上り本線を通過中の貨物列車が衝突、脱線し、さらに下り普通列車と衝突した三重衝突事故が発生しました。普通列車の客車4両が脱線転覆し、桜川に落下する車両もあり、多



くの犠牲者を出しました。この事故については、戦時下であったためにほとんど報道されることはありませんでした。事故現場には昭和61（1986）年に慰霊碑が建立されました。（非公開）